

北京交通大学との学術交流（JST さくらサイエンスプログラム）実施報告

須崎 文代* 内田 青蔵** 曾我部 昌史*** 中井 邦夫**** 山家 京子***** 六角 美瑠***** 柏原 沙織*****

The International Academic Exchange (JST Sakura Science) Program with Beijing Jiaotong University

Fumiyo SUZAKI* Seizo UCHIDA** Masashi SOGABE***, et al.

1. 本プログラム実施の経緯

本稿は、2023 年 12 月に実施した北京交通大学（+北京服装学院）との学術交流の報告である。北京交通大学とは 2019 年、北京服装学院とは 2014 年以来、デザインコース（現在の住生活創造コース、まち再生コースを含む）の教員を中心とした学術交流の蓄積がある。これまでの交流については両校および中国政府からの評価を受けていると知らされている。本年度のプログラムもその継続性のなかで実施されたものである。

2. 実施内容

本プログラムは以下の内容で実施した。

- ・期間：2023 年 12 月 4 日～13 日
- ・助成：JST さくらサイエンスプログラム（2 回目）
宿泊・交通費、見学科、査証手数料、TA 謝金、日当
- ・テーマ：スマートシティ構想導入のための日本建築および都市・景観デザインの研究
- ・実施主担当者：須崎文代（住生活創造コース准教授）
- ・受入れ対象者：北京交通大学教員 1 名、大学院生 8 名
北京服装学院教員 1 名 合計 10 名
- ・目的と趣旨：（以下は JST 申請内容）

今回の交流計画では、現代社会が直面している地球環境保護および居住環境改善の観点から、スマートシティ構想を導入するための知見を修得することを目標に、日本国内で実践されている事例の視察・見学および日中相互の専門家による講義の受講や意見交換を通して、高度な知識と実装のための視点を身につけることを目的とする。

具体的には、建築・都市・環境デザインの専門家である教員の講義を受講し、基本的知識と最新の動向について学習するとともに、横浜・京都・大阪における近現代の建築・都市計画・環境デザインの事例の視察によって先駆的デザインに関する知見を深め、また横浜・京都における歴史的建造物の視察を通じて、スマートシティ構想における歴史的文化的価値の重要性を認識する機会とする。

- ・実施内容：①特別連続公開講演会の実施（全 6 回）

「空間デザインにおける伝統文化要素の応用と思考」

李政教授（北京服装学院）

「中国大学のグリーンキャンパス文化景観建設研究と対策：北京交通大学の例」

魏泽崧（北京交通大学教授）

他、内田青蔵、山家京子、中井邦夫、柏原沙織

②横浜、京都、大阪の都市・建築の視察調査

③大学院生によるプレゼンテーションと講評

3. 今後の展望

デザインコースでは、この学術交流プログラム実施以前から、大学院生を中心とした東アジア国際ワークショップの開催・参加を毎年実施している。こうした学術交流は教員・学生・留学生および各国の建築文化にとって重要な機会であり、今後も積極的に進めていきたいと考えている。



図 1 参加者集合写真



図 2 JST さくらサイエンスプログラム修了証授与式

*准教授 建築学部建築学科

Associate Professor, Dept. of Architecture

**特任教授 建築学部建築学科

Special Appointed Professor, Dept. of Architecture